

龍谷大学図書館長 殿

所属・職名 政策学部・教授
氏名 只友 景士2019年度 大型図書 研究成果（経過）報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名	採択年度
再生可能エネルギーの普及に関する政策的検討のための欧米学術文献コレクション	2019年度
1. 研究の概要について	
<p>大島堅一は、環境経済学、財政学、経済学の立場から再生可能エネルギー問題などエネルギー政策の研究を行っており、原子力エネルギーと再生可能エネルギーの発電コストの比較研究など、我が国におけるエネルギー問題、エネルギー政策研究を行っている。最近の研究成果は、大島堅一編著『炭素排出ゼロ時代の地域分散型エネルギーシステム』日本評論社、（2021年）として刊行されている。脱炭素社会を創り、地域分散型エネルギーシステムの構築の可能性について研究を進めてきた。</p> <p>申請代表を務める只友景士は、財政学、地方財政論をベースとする研究を行っているが、沖縄などの島嶼地域経済研究を行っており、再生可能エネルギーのエネルギーサイトを地方に分散的に配置することによる地域経済再生の可能性について研究を行っている。2020年には、京都地方自治総合研究所が組織した「バイオマスエネルギー研究会」の研究活動に参加し、報告書『京都市における木質バイオマス発電の可能性』に執筆参加した。</p>	
2. 購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。	
<p>現在の再生エネルギーへの関心の高まりは、温室効果ガスの増大による気候変動の進行や3.11の福島第一原発事故による原子力エネルギーの安全性と経済性の神話の崩壊といった文脈に加えて、Society5.0の高度情報化社会への移行やAI技術の発達によるスマートグリッドの進展など100年に一度のエネルギー転換の時代の変化の中で、その先導的な研究に活用している。</p> <p>近年、政策学部の卒業論文や政策学研究科の修士論文において、再生可能エネルギーをテーマとする学部生・大学院生が多数現れており、本コレクションを研究資料として大いに活用されている。</p> <p>大学院生レベルでは、本コレクションの中から一冊を選び、その内容を簡潔に紹介するレポート課題等を出すなど、授業での活用も進められている。</p>	

3. 研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

【雑誌論文】

・大島堅一「コスト問題からみた原子力発電の現在」『学術の動向』編集委員会，日本学術会議 編 27 (4)，59-63，2022-04

・只友景士「再生可能エネルギー政策を地方自治体政策にどう位置づけるか？」『京都市における木質バイオマス発電の可能性について』特定非営利活動法人 京都地方自治総合研究所 バイオマスエネルギー研究会、2021年

【図 書】

大島堅一編著『炭素排出ゼロ時代の地域分散型エネルギーシステム』日本評論社、2021年

☆資料購入後、**1年以内**に**研究経過報告書**を提出し、また、**3年以内**に**研究成果報告書**を提出してください。

加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。

☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。